



建 第 1 2 3 号
平成 1 9 年 4 月 2 6 日

国土交通省 道路局長 殿

内子町長 河内 紘一



中期的な計画の作成にあたっての意見提出について（回答）

平成 1 9 年 4 月 2 日 付け 国道企 第 1 1 4 号 で 依頼 の あり ました 標 記 の 件 に つ き ま し て 、 別 紙 の と お り 回 答 致 し ま す 。

道路整備中期計画に対する意見

内子町長 河内 紘一

地方では、車がなければ生活ができないため、一世帯当たりの車保有台数も多く、便利な都市部の世帯より道路特定財源を多く負担している家庭が多い。地方の住民にしてみれば、都市部の住民より多くの負担をしているのに、なぜその目的である道路整備の恩恵を受けられないのかという不信感を持っているのではなかろうか。

地方の住民にとって、道路は生活の一部であり、通勤、通学、医療、福祉などあらゆる面において道路が無くては生活は成り立たない。

しかし、地方の道路の実態は、走行上危険であったり、離合もままならず無駄な時間を費やしたりと、日常生活に支障をきたすほど劣悪な状態の箇所が多数存在している。特に愛媛県においては、整備率が全国ワースト6位で、まさに昭和56年当時の全国水準並の状況となっている。その県内でも、内子町を始めとする南予地域はとりわけ整備状況が悪く、県内格差も徐々に広がりつつある。このため、住民は不便を余儀なくされ、残るべき後継者など、地域活力の主役となる若者が、愛着のある地域を離れ、便利な都会へと流出しており、地域の活力は低下の一途をたどっている。このような観点から、地方にとって真に必要な道路整備とは、中間山地の生活を維持する道路、また、地域活力を取り戻し、地域を再生させるための道路など、地域に密着した地方道整備を優先する必要があるのではないかと考える。

当町における問題点は、合併による旧町間の幹線道路整備が完了していないため、一体感の醸成が十分図られていないこと、山間集落が広範囲に散在している関係上、幹線道路に至るまでの県道など、生活道路が悪路となっており、その整備が特に急がれることである。

県道の整備については、現行制度では、国庫補助対象とならない路線も多く、県単独事業のわずかな予算で整備が行われており、目に見えた効果が現れていない。このような路線の整備が可能となるよう、現行制度の要件緩和など、地方の実態を把握したうえでの政策展開を図って欲しい。広義的に地方の道路に重点配分をお願いしても、その受け皿が無ければ、ピンポイントで地元にとって真に必要な路線の整備に予算が回ってくることに期待が持てない。

『地方の時代』といわれている今日、必要最低限の資本整備すら整っていない状態で地方の時代などと、とても言える状況にない。道路整備はもとより、各種政策面で『地方への押しつけの時代』とならないよう期待する。

～優先すべき道路施策～

1. 中山間地の生活維持や地域再生に寄与する地方道路の整備

重点化と効率化を重視し、沿道状況に合わせた1.5車線的な整備を推進して、早急に住民生活の安全安心を確保する。

2. 道路ストックの適切な維持管理

寿命を迎えた橋梁の延命化や日常の維持管理コスト削減に向けた取り組みが必要。町管理の橋梁などは、耐震化はもとより補修の目途すらたっていない。先送りできない問題と認識しているが、町単独では、財政的また、技術的に限界がある。18年度に「長寿命化計画策定事業」が創設されたと聞いており、今後、この制度を活用して、計画的な対応を行っていく必要があると考えているが、補助対象範囲の拡大や補助率の嵩上げなど、更に市町が取り組みやすい環境を整備して欲しい。

また、道路管理は官民協働が重要と考えるが、住民ボランティアの域には達していない。コストを抑えつつ、一定の維持管理レベルを維持するためには、今後住民ボランティア活動の要請など、さらなる検討をしていく必要がある。

3. 環境や景観に配慮した道路整備

当町では、景観行政団体や環境自治体となって、良好な景観形成や環境保全活動などの取り組みを行っている。国で取り組んでいる日本風景街道と同じように、景観、自然、歴史、文化など地域資源や個性を活かしながら、多様で質の高い風景を形成していくための施策に重点をおいている。その中で道路は、単に物流の空間では無く、沿道や地域、そこに暮らす人々と深い関わりを持っていることから、これら風景の一部と考えており、今後の整備手法についても、一体的となった整備を促進することで、更なる価値創造がなされるよう配慮していく必要があると考えている。

また、社会問題となっているCO2削減問題については、我々も身近な所から取り組んでいる所である。道路施策においても、既存道路を活用しつつ、車両の高速化や一般道路における渋滞緩和など削減効果の高い施策を推進して頂きたい。

4. 四国における高速道路の早期完成について

整備が遅れている高速道路について、早期の8の字ルート完成をお願いしたい。また、現在2車線で暫定供用している区間についても、走行上、高速道路としての効用を発揮していないため、早期の4車線化を図られたい。